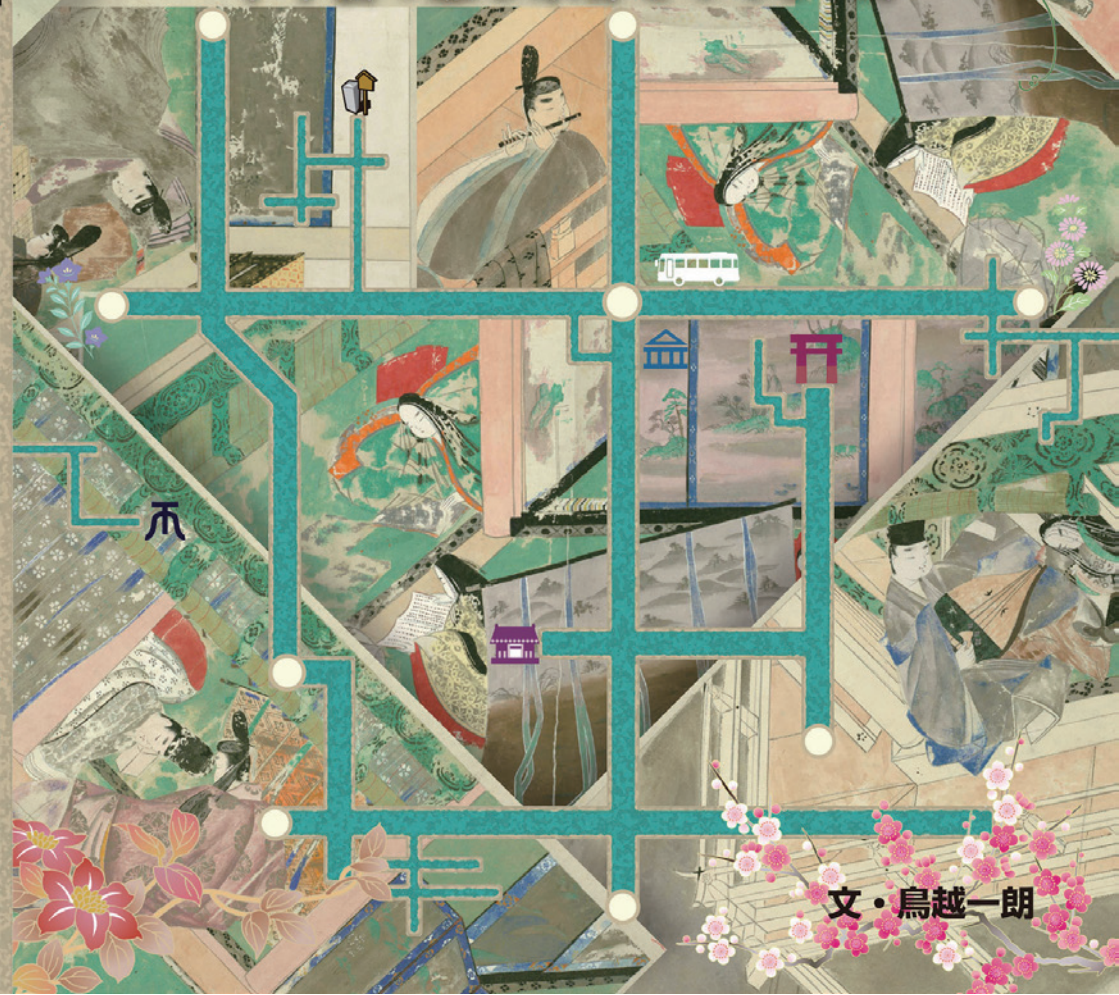


紫式部と源氏物語

京都平安 地図本

千年前の雅な京都をめぐる1冊



文・鳥越一郎

はじめに

今から千年と少し前、平安の女流作家・紫式部が書き上げた『源氏物語』は、世界最古の長編小説といわれ、日本が世界に誇る文学作品だ。紫式部は京都に住まいし、源氏物語は主に京都が舞台であるから、京都及びその周辺には、両者にまつわる名所旧跡が数多く残されている。本書は、それらを42のエリアに分け、地図・写真とともに紹介したものである。紫式部の生涯や源氏物語のあらすじ・登場人物についても概説しているので、本書を手に京都を巡れば、「紫式部と源氏物語」の世界を存分に楽しんでもらえるだろう。それでは、いにしへの平安京へ、さあ、まいらむ!

目次

巻頭

はじめに	巻頭
京都広域図	2
京都中心部地図	4
近畿地方地図	5

●紫式部の生涯	6
1 生まれた時代	6
2 家柄	7
3 越前下向	9
4 結婚と出産	10
5 中宮彰子へ出仕	10
6 宮仕え生活	11
7 道長との関係	12
8 源氏物語を書く	13
9 性格	14
10 晩年	14
11 紫式部日記と紫式部集	15
12 紫式部と平安京	16
13 平安の女流作家たち	18
14 紫式部をめぐる人々	20

エリアガイド

東寺	28
西本願寺界隈	30
東本願寺界隈	32
烏丸御池	34
京都御苑	36
植物園	39
下鴨	40
神泉苑	42
西陣	44
旧大内裏跡	46
船岡山	48
上賀茂	50
東福寺界隈	52
六波羅	54
八坂・清水	56
岡崎	58
八瀬	60
岩倉	61
鞍馬・貴船	62
大原	64
比叡山	66
北野天満宮	68
御室	70
太秦	72

嵐山	74	小野郷・杉坂	92
嵯峨	76	石清水八幡宮	93
高雄	78	宇治	94
松尾	80	逢坂	98
大原野	82	石山寺・唐橋	100
伏見	84	長谷寺	102
城南宮	86	須磨	104
木幡・六地蔵	88	明石	106
醍醐	90	住吉大社	108

●源氏物語54帖あらすじ	110
●源氏物語に登場する男たち	127
●源氏物語を彩る女性たち	132

平安時代歴代天皇一覧	109
------------	-----

系図

藤原北家関係図	138
天皇家関係図	140
源氏物語関係図1	142
源氏物語関係図2	144

年表

平安時代年表	146
紫式部年表	148
源氏物語年表	150

●源氏物語に出てくる草木の花

索引	156
参考文献	158
あとがき	159
執筆者プロフィール	160
奥付	160

地図記号
平安関連史跡は紫字

- 神社
- 寺
- 石碑
- バス停
- 史跡
- 史跡(痕跡なし)

本書地図では、平安時の物件敷地を以下色で現在の地図と重ね合わせて表記してあります。
※敷地名では「藤原」は「藤」と略記しています。

大内裏・離宮	寺社
邸宅	その他
官衛	現在の敷地
旧水系	旧街道

紫式部の生涯



紫式部像(紫式部公園／福岡県越前市／地図5頁)

『源氏物語』の作者として余にも有名な紫式部だが、その生涯については不明な部分が多い。生没年はおろか、本名すらはっきりしないのである。ただ、彼女が残した『紫式部日記』と『紫式部集』により、宮仕え時代の彼女の行動や性格はある程度は窺い知ることが出来る。それらをもとに彼女が京都を中心に歩んでであろう人生を、駆け足で追いかけてみたい。

1 生まれた時代～摂関政治の全盛期～

■平安時代の折り返し点

紫式部の誕生年は不祥だが、天禄3年(970)、天延元年(973)、天元元年(978)などの説がある。いずれにしろ、円融天皇の在位中で、400年続く平安時代が、ちょうど折り返し点に差し掛かる頃だ。世の中は藤原氏による摂関政治が全盛期を迎えようとしてい

た。摂関政治とは、藤原氏が天皇の外戚となり、摂政・関白として、天皇に代わり政治を行うことである。まずは、そこに至るまでの平安時代の流れを見ておこう。

桓武天皇が、平城京から長岡京を経て、京都へ都(平安京)を移したのは、延暦12年(794)10月22日のことであった(京都三



平安京大内裏の正庁・朝堂院を模してつくられた平安神宮の社殿(地図58頁)

大祭りの一つ「時代祭」はこれを記念して、毎年10月22日に行われる)。桓武天皇がなぜ平安遷都を行ったかについては、諸説あるようだが、第一には、強大になりすぎた奈良の仏教寺院の勢力を削ぐためだったといわれる。「泣くよ(794)坊さん、平安京」の語呂合わせは、ここからきているわけである。

■藤原北家の台頭

桓武天皇の願いも空しく、平安京とは名ばかりで、遷都後100年ぐらゐの間は、国家的な事件が続けて起こっている。そのたびに、他氏を退けて勢力を伸ばしていったのが藤原氏(北家)だった。承和9年(842)の「承和の変」及び貞観8年(866)の「応天門の変」で、名門貴族の伴氏(大伴氏)が追放され、藤原良房が摂政となった。昌泰4年(901)には、藤原時平の讒言により、宇多天皇の覚えめでたかった右大臣・菅原道真が大宰府に左遷された。

安和2年(969)の「安和の変」では、藤原師尹が左大臣・源高明を左遷し、自らが左大臣に収まった。この結果、藤原氏に対抗する氏族は無くなり、摂関政治が定着することになったのである。もっとも、その後は藤原北



藤原兼家の邸宅跡とされる大將軍神社東三條社(地図58頁)

家内で、権力闘争が行われる。

藤原兼通と兼家兄弟は、摂関の座をめぐる骨肉の争いを繰り広げた。先に関白となった兄・兼通により、兼家は冷や飯を食わされるが、兼家には天皇家に外孫がいるという強みがあった(兼通にはいなかった)。そして寛和2年(986)、この外孫が即位して一条天皇となった時、兼家は晴れて摂政の座に就いたのであった。

この兼家の息子が道長で、ライバルの兄弟・甥を抑えて実権を握ると、父・兼家に倣って4人の娘を次々と入内させ、3天皇の世を通じて、摂政・太政大臣を歴任する。藤原北家は道長の時に栄華の頂点に達するのだが、紫式部はそうした時代を生きたのである。

2 家柄～文学者の家系～

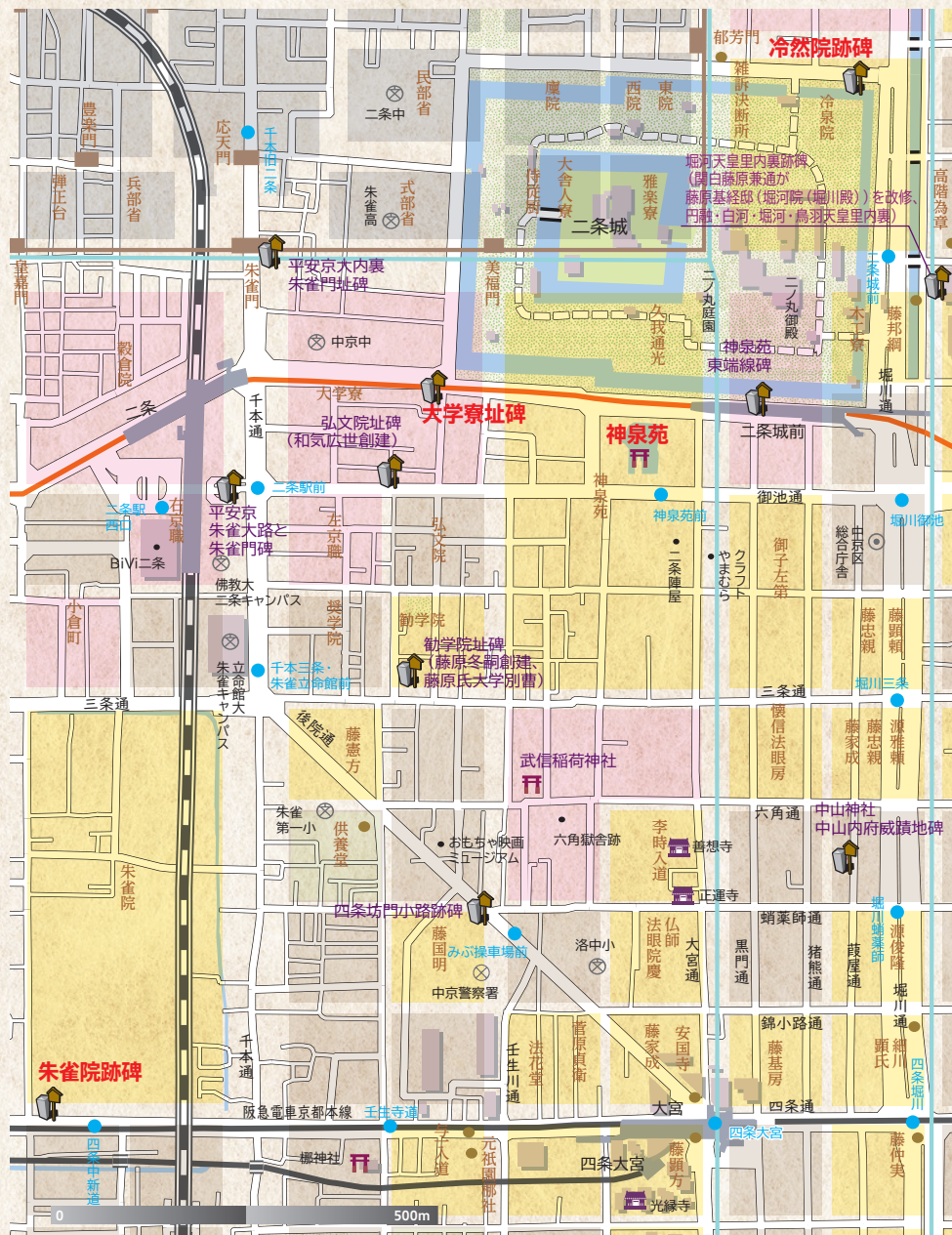
紫式部の父は藤原為時、母は藤原為信の娘で、父方母方ともに藤原北家興隆の祖・藤原冬嗣に繋がる名門であった。しかし、冬嗣の次の代以降、良房の系統が摂関家を継承していくのに対し、式部の父方の良門の系統と母方の長良の系統は、政権中枢からはずれ、両祖父の代からは、それまでの上達部(基

本三位以上)の位から四・五位程度の受領階級に降格していた。

為時は、文章博士・菅原文時(菅原道真の孫)門下の文人で、永観2年(984)8月、花山天皇の即位時に式部丞蔵人に任じられ、その後、式部大丞に昇進する(紫式部の「式部」はこの父の官職名からきているとされる)。しか

禁苑・後院・勉強の地 神泉苑

禁苑の遺構・神泉苑を中心とするエリアで、天皇退位後の住居であった冷泉院や朱雀院、夕霧が勉強した大学寮などの跡碑がある。



桓武天皇が造営した 神泉苑

東寺真言宗の寺院であるが、もとは平安遷都の時期に桓武天皇が造営した、法成就池を中心とする大規模な禁苑（天皇のための庭園）であった。池には水をつかさどる竜神が棲むと言われ、西寺の守敏と東寺の空海が祈雨の修法を競い、空海が勝利したという伝説がある。貞観5年（863）、都に疫病が流行り、神泉苑で御霊会が行われたが、これが日本三大祭りの一つ、祇園祭に繋がったといわれる。

冷泉帝が行幸した 朱雀院跡

朱雀院は、平安時代初期に成立した後院の一つ。宇多天皇、朱雀天皇が退位後に利用した。天曆4年（950）火災に遭い、村上天皇により再興されたが、その後荒廃した。紫式部が生きた時代にはまだ存在したと考えられ、『源氏物語』第7帖「紅葉賀」では、桐壺帝が朱雀院へ行幸する際、同行できない藤壺のために、光源氏らが宮中で詩楽を催し、また、第21帖「少女」では、冷泉帝が朱雀院へ行幸する場面がある。



☎075-821-1466 京都市中京区門前町166
アクセス：京都市営地下鉄「二条城前」駅より徒歩2分
時間：7時～20時
料金：境内自由 駐車場なし



光源氏が宴を催した 冷泉院跡（元冷然院）

冷泉院は、平安時代初期に嵯峨天皇が自らの後院（退位後の住居）として造営した邸宅。現在の二条城の北東部に位置し、寝殿造の建物で池の左右に釣台があったという。その後、仁明、文徳、冷泉など歴代天皇が後院や里内裏として利用したが、11世紀半ば以降、衰亡した。『源氏物語』第38帖「鈴虫」では、冷泉院（退位後の冷泉帝）の招きを受けた光源氏らが、冷泉院の邸宅（冷泉院）へ赴き、詩歌の宴を催す場面がある。

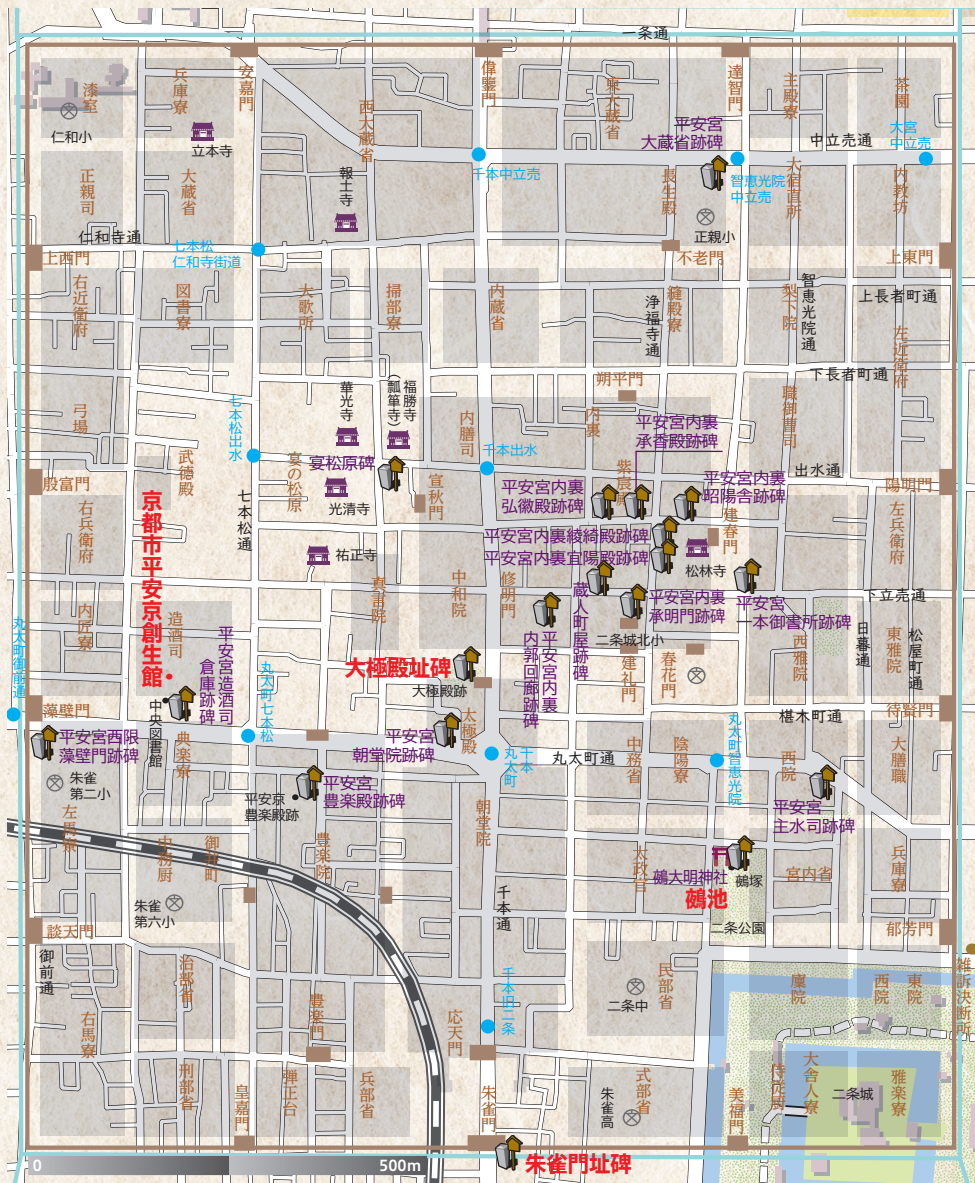
夕顔が勉強に励んだ 大学寮跡

大学寮は、式部省（現在の人事院に当たる）直轄の官僚養成機関で、官僚候補の学生の教育・試験などを行った。大学寮で紀伝道（漢文や歴史を学ぶ学科）を修めると文章生となり任官した。紫式部の父・藤原為時は文章生であった。『源氏物語』第21帖「少女」で、光源氏は元服した息子の夕霧を、取立て六位という低い位に付け、大学寮に入れて勉強させる。



平安時代の宮城 旧大内裏跡

千本丸太町を中心とするエリアで、旧大内裏の大極殿、朱雀門の跡碑や、平安京の模型を展示する京都市平安京創世館などがある。



朝廷の正殿 大極殿跡

大極殿は、大内裏の正庁である朝堂院の正殿で、即位の大礼や国家的儀式が行われた。長保3年(1001)3月10日には、疫病退散のため、「百座の仁王講」が行われている。大内裏は東西約1.2km、南北約1.4kmの広さがあり、天皇の在所である内裏のほか、二官八省の官庁が置かれていた。『源氏物語』に登場する兵部卿宮・式部卿宮は、八省の中の兵部省と式部省のそれぞれ長官を意味する。大内裏はたびたび火災に遭い、安貞3年(1227)の火災以降は荒廃し、内野と呼ばれた。

妖怪退治の鎌を洗った 鵪池

「平家物語」によると、平安時代の終わり頃、天皇の御所である清凉殿に毎夜不気味な鳴き声が響き、それを恐れた天皇が病に伏したので、弓の名人である源頼政が、現れた妖怪・鵪を矢で射ったところ、当地に落下しとどめを刺されたという。この池は、頼政が鵪から矢を抜き、血の付いた鎌を洗ったという池を復元したものとされる。



大内裏の正門 朱雀門跡

朱雀門は、平安京大内裏の南面にある正門。大内裏の周囲は築地の大垣で囲まれ、12の外郭門が設けられていたが、そのうち最も重要な門であった。平安京の正門である羅城門まで、幅約84mの朱雀大路つながっていた。毎年6月と12月の大祓や天皇即位後の大嘗祭、疫病発生時の繪旨大祓は、朱雀門の前で行われた。長保3年(1001)4月12日には、疫病退散のため「大祓い」が行われている。建暦元年(1211)の倒壊以降、再建されなかったといわれる。



平安京の巨大復元模型を展示 京都市平安京創生館 (京都アスニー1階)

平安京の地理・歴史・文化を紹介する博物館。平安時代に酒・酢を作る役所「造酒司」のあった場所に建つ。平安京の復元模型(1/1000:7.8m×6.6m)や、現在と平安時代の地図を重ね合わせた「平安京イメージマップ」、当時の貴族・庶民の衣食住についての史料・出土品・レプリカ・パネルなどを展示。映像設備や学習クイズパネルなども備えて、平安京の暮らしや文化を分かりやすく解説している。

☎075-812-7222
京都市中京区丸太町通七本松西入京都アスニー1階
アクセス:市バス・京都バス・JRバス「丸太町七本松」よりすぐ
時間:10時~17時(入場は10分前まで) 火曜(祝祭日の場合はその翌日)・年末年始休 料金:無料 駐車場あり(有料)

平安時代の風情漂う 城南宮

方除の大社・城南宮を中心とするエリアで、白河・鳥羽上皇ゆかりの鳥羽離宮跡公園や安楽寿院、六地藏で有名な浄禅寺などがある。

源氏物語ゆかりの草木が見られる 城南宮

城南宮は平安遷都の際、都の南に国と都を守護する神社として創建されたと伝わり、祭神は、城南大神と崇められた。平安時代後期、白河上皇が城南宮を中心とする鳥羽の地に鳥羽離宮（城南離宮）を造営すると、一帯は大いに栄え、離宮の鎮守として祭礼行事は一層盛んとなった。境内にある神苑「楽水苑」は、『源氏物語』ゆかりの植物が多く植栽され、「源氏物語 花の庭」として親しまれている。早春の椿・しだれ梅、新緑の季節の藤と躑躅、秋の草花と紅葉など四季折々に美しい。毎年4月29日に平安貴族の歌遊びを再現する「曲水の宴」が催されることでも知られる。

☎075-623-0846 京都市伏見区中鳥羽鳥羽離宮町7
アクセス：近鉄・地下鉄「竹田駅」より徒歩約15分
時間：9時～16時半（受付～16時）
料金：境内参拝自由 神苑拝観は800円（時期により異なる） 駐車場あり



不義の子に悩んだ？鳥羽上皇が創建 安楽寿院

白河上皇に続いて、鳥羽離宮の造営に取り組んだ鳥羽上皇（白河上皇の孫）が、同離宮の東殿に築いた仏堂が起源とされる。皇室ゆかりの寺院で、境内に隣接して鳥羽天皇と近衛天皇の御陵がある。鳥羽上皇の中宮璋子（待賢門院）は白河法皇の養女で、第1子の顕仁親王（後の崇徳天皇）の父親は白河法皇であると噂され、不義の子という点で、顕仁親王は『源氏物語』の冷泉帝や薫を彷彿させる。

☎075-601-4168 京都市伏見区竹田中内畑町74
アクセス：京都市営地下鉄・近鉄「竹田」駅より徒歩10分
料金：境内自由 駐車場なし

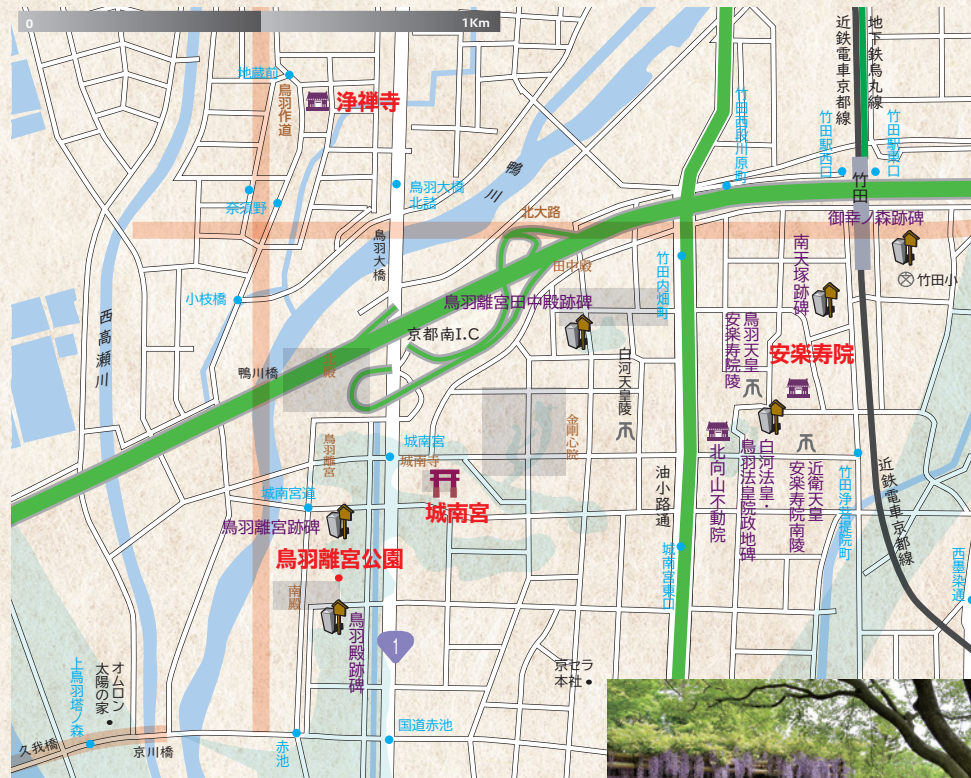
鳥羽作道沿いに建つ 浄禅寺

鳥羽作道（羅城門から淀方面に向かう古代路）の沿道に建つ寺院で、創建時は未詳。文覚上人が、片思いの人妻・袈裟御前を誤って殺してしまった悔恨の念から創建したとも伝わる。境内の地藏堂にある地藏菩薩像は、平安時代の初め小野 篁が地獄から生還した際、1木から6体を刻んだ地藏像の1つといわれ（鳥羽地藏）、当寺は「六地藏めぐり」の1カ所となっている。

☎075-691-3831 京都市南区上鳥羽南岩ノ本町90
アクセス：市バス「地藏前」よりすぐ
時間：9時～16時
料金：境内自由 駐車場あり

六条院を真似て造営 鳥羽離宮跡公園

鳥羽離宮（城南離宮）は、白河上皇が院政を執るために造営した院御所で、東西約1km、南北約1.2kmの広大な面積を有し、大池のある庭園や豪華な宮殿を備えていた。白河上皇は『源氏物語』を好み、主人公の光源氏が造営した六条院に触発されて、鳥羽離宮を築いたといわれる。当公園は、鳥羽離宮の南殿跡に史跡公園として整備されたものである。



曲水の宴（城南宮）



藤と躑躅（城南宮）

しだれ梅と落ち椿（城南宮）



図7 病床の柏木を見舞う夕霧(第36帖「柏木」)

納言になった。10月末、冷泉帝が朱雀院と共に六条院に行幸、源氏の栄華は絶頂期を迎える。

第34帖 若菜上

病気がちの朱雀院は、出家しようとするが、後見の無い娘・女三の宮のことが気がかりであった。求婚者は多いものの、理想の相手は源氏をおいてほかに考えられなかった。源氏は初め辞退するが、女三の宮の装着の後、出家した朱雀院を見舞い、後見を引き受けることに。2月、女三の宮は六条院に輿入れするが、その幼稚さに源氏は落胆し、紫の上の魅力を再認識する。正月に玉蔓が若菜を調じ、源氏の四十の賀を祝い、秋以降は紫の上・秋好中宮・夕霧も祝賀を催した。翌年3月、明石の女御(姫君)が皇子を出産。3月末には柏木が、六条院で蹴鞠が行われた際、偶然女三の宮を垣間見て心惹かれる。

第35帖 若菜下

柏木は蹴鞠の日以来、女三の宮への恋情

を募らせた。女三の宮の義理の兄弟である東宮(後の今上帝)から、彼女の飼う唐猫を借り受け、心の慰めとしていた。4年ののち、冷泉帝が退位し、今上帝が即位、明石の女御が産んだ皇子が東宮に立つ。太政大臣(頭中将)は辞任し、鬚黒が右大臣に、夕霧は大納言になった。年が明け、朱雀院の五十の賀宴に先立ち、六条院で女樂が催された。翌朝、紫の上は突然発病し、二条院に移される。一方、柏木は妻(落葉の宮)を持つ身となっていたが、女三の宮のことが忘れられず、小侍従の手引きで、源氏の留守に女三の宮の部屋に忍び込み、思いを遂げる。

第36帖 柏木

女三の宮との関係を源氏に知られ、恐怖から柏木は病に倒れる。女三の宮は柏木との子・薫を産むが、源氏の冷たい態度に出家を望み、父・朱雀院が見舞いに訪れた際、ついに髪を下してしまう。重病に陥った柏木を案じた今上帝は、彼を権大納言に任じる。しかし、柏木は自らの死期が近いのを悟り、祝いに訪れた夕霧に、源氏への取り成しや、妻の落葉

の宮のことを託すと、息を引き取ったのだった。3月、薫の五十日の祝いがあり、源氏は柏木のことを思って感慨に沈む。一方、夕霧は柏木の遺言に従って、落葉の宮を慰問し、彼女への慕情を募らせる。

第37帖 横笛

柏木の一周忌に源氏は厚い志を寄せる。夕霧は未亡人となった落葉の宮のもとを足繫く訪ね、ある秋の夕、2人は琵琶と琴で「想夫恋」を合奏する。落葉の宮の母・一条御息所(朱雀院の後)は、柏木の形見の横笛を夕霧に贈った。夕霧が遅く帰宅すると、夕霧と落葉の宮の噂を聞いた妻の雲居雁は、嫉妬心から立腹し、臥せていた。その夜、夕霧の夢に柏木が現れ、その笛を伝えたい人は他にいと告げた。翌日、夕霧は六条院に参上し、幼い薫を見て柏木とそっくりなのに驚く。疑念を抱いた夕霧は、源氏に対面して探りを入れるが、源氏は取り合わず、ただ横笛を預かったのだった。

第38帖 鈴虫

夏、蓮の花盛りに、出家した女三の宮の持仏開眼供養が盛大に行われた。秋、女三の宮に執着する源氏は、彼女の御殿の前庭を秋の野原風に作り直し、鈴虫を放った。十五夜、源氏が女三の宮と共に、鈴虫の音を楽しみながら琴を奏でていると、螢宮らがやってきて、合奏が始まった。そこへ、冷泉院から招きの使者があり、源氏は一同を引きつれて、冷泉院のもとへ参上し、夜を徹して詩歌の宴を催したのだった。翌日、源氏は秋好中宮とも対面し、彼女から、地獄の業火に苦しんでいる母・六条御息所のために出家したいと告げられるが、出家よりも母君の追善供養をするよう勧める。

第39帖 夕霧

夕霧の落葉の宮への想いはさらに募り、彼女と病弱な母・一条御息所が移り住んだ小野の山荘を訪ねる。夕霧は落葉の宮に恋情を



図8 柏木が現れた夢から覚めたか夕霧(左)。中央は若君を抱く雲居雁(第37帖「横笛」)

た。友人である柏木の死後、彼の未亡人・落葉の宮に心を奪われる。2人は結ばれるが、それを知った雲居雁は、怒って子供を連れ、実家に帰ってしまう。源氏の死後、夕霧は右大臣となり、長女（藤典侍との娘・大君）を今上帝の皇太子妃に、次女（雲居雁との娘・中の君）を二の宮妃にし、六の君（藤典侍との娘）を匂宮に嫁がせた。

鬚黒

玉蔓を射止めた果報者。朱雀帝の後・承香殿女御の兄。妻子持ちであったが、玉蔓に夢中になり、彼女の女房・弁のおもとの手引きにより、尚侍として冷泉帝に出仕することが決まっていた玉蔓を手に入れる。嫉妬から精神を病んだ北の方（正妻／兵部卿宮の娘）は、鬚黒に火取りの灰を浴びせかけ、娘の真木柱を連れて実家に帰ってしまう。しかし、甥に当たる今上帝が即位すると、右大臣に昇進し、妻・玉蔓と共に権勢を誇る家を築く。光源氏と相前後して死去。

螢兵部卿宮(螢宮)

桐壺帝の皇子で、光源氏の異母弟。絵画・香道・書道など芸術に造詣が深く、琵琶の名手でもあった。源氏とは仲がよく、冷泉帝の御前行われた絵合では判者を務めた。右大臣の三女を北の方としたが死別し、玉蔓に心惹かれるようになる。源氏の放った螢の光で玉蔓を垣間見、さらに想いを募らせるが、鬚黒に玉蔓を奪われた。女三の宮の婿の候補にも上がったが、女三の宮は源氏に嫁ぐことになる。その後、鬚黒の娘・真木柱と結婚、姫君に恵まれた。

八の宮

桐壺帝の第8皇子。母は女御（大臣の娘）。

光源氏の異母弟で、弘徽殿太后に利用されて皇太子候補となったが、源氏の全盛期に没落した。北の方との間に2人の娘、大君と中の君があり、また、中將の君との間にも娘・浮舟をもうけていたが、認知はしていなかった。北の方が死に、自邸が焼亡すると、宇治の山荘に移り、宇治山の阿閼梨に師事しながら、娘2人と暮らした。阿閼梨から八の宮のことを聞いた薫が、師と仰いで宇治へ通うようになる。死に際し、2人の娘に決して浮ついた心で結婚してはならないと遺言した。

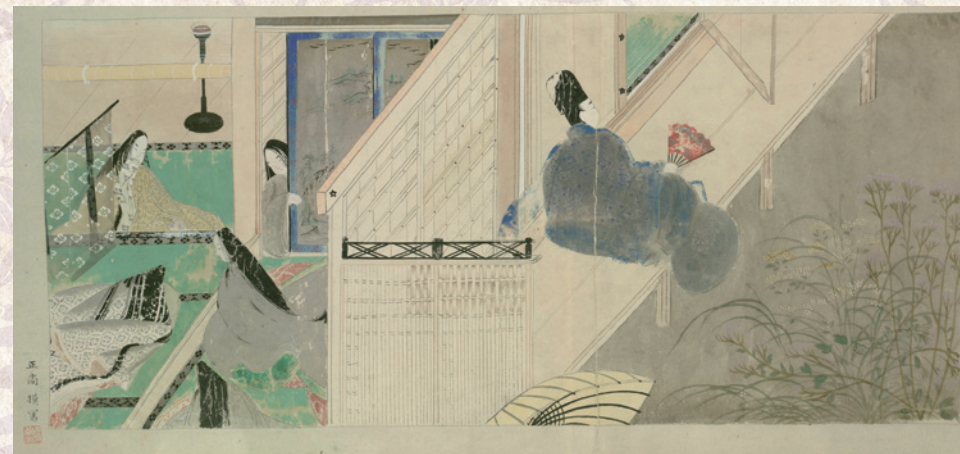
柏木

頭中將の息子。母は右大臣の娘・四の君。朱雀帝の女二の宮（落葉の宮）と結婚するが、それ以前から光源氏の妻・女三の宮に思いを寄せていた。女三の宮の兄である東宮（後の今上帝）を通じ、彼女が可愛がっていた猫を手に入れ、彼女の身代わりに可愛がる。6年後、ようやく思いを遂げ、女三の宮は、柏木の子・薫を源氏の次男として産むことに。2人の関係に気付いた源氏は、六条院で行われた朱雀院の五十の賀で、柏木に圧力を掛ける。氣に病んだ柏木は重病となり、妻・落葉の宮の面倒をみてくれるよう夕霧に頼んで、息を引き取った。

薫

光源氏の次男。母は女三の宮だが、実の父は柏木。源氏の死後、女三の宮に頼られ、冷泉院や秋好中宮にも可愛がられた。生まれつき香しい香りを持ち、世間の信頼も厚く、婿に望む者は多かった。しかし、厭世観があり、宇治で仏道修行をする叔父の八の宮に憧れ、しばしば宇治を訪ねるようになる。そこで、八の宮の娘2人を垣間見、長女の大君に心奪われる。しかし、父の遺言に従う大君は、薫

図15 三条の隠家にいる浮舟（左下）を連れ出そうと訪れた薫（第50帖「東屋」）



の求婚に応じなかった。友人の匂宮に次女の中の君を紹介し、匂宮と中の君は結ばれるが、大君は心労がたたって病死。その後、今上帝の女二の宮と結婚するものの、中の君の異母妹で、大君によく似た浮舟に心奪われ、彼女をめぐる匂宮と恋のさや当てを展開する。

匂宮

今上帝の第3皇子。母は光源氏の娘・明石の中宮。幼い時、病身の紫の上から、彼女の愛した二条院の紅梅と桜を見守るよう、遺言される。様々な香を体にたきしめ、生まれつ

き芳香を放つ薫と共に、「匂う兵部卿、香る中將」と並び称された。内向的な薫に比べ、何事にも積極的な性格で、薫から聞いた宇治に住む八の宮の娘・中の君に興味を持ち、宇治に通って関係を持つと、彼女を二条院に迎えた。その後、夕霧の娘・六の君と結婚するが、二条院の中の君のところに身を寄せた彼女の異母妹・浮舟に心惹かれる。雪の夜に浮舟を小舟に乗せて連れ出すなどして思いを告げるが、薫からも言い寄られる浮舟を自殺未遂に追いやってしまう。

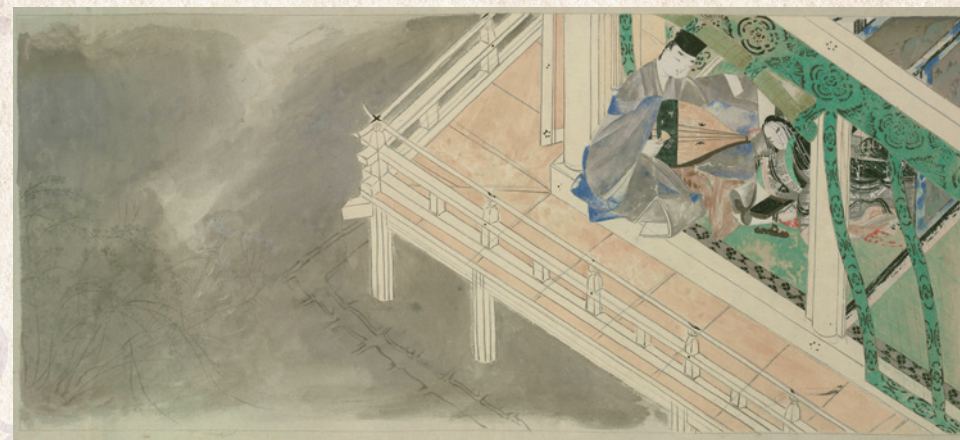


図16 中の君の前で琵琶を弾く匂宮（第49帖「宿木」）

『源氏物語』に出てくる草木の花 ～紫式部はナチュラリストだった～

『源氏物語』には多くの植物が登場し、その種類は110を超えるという。季節を表すだけでなく、女性の美しさやはかなさの例えとして、また、心理描写や情景描写の効果を上げるため、巧みに使われている。これらの植物は、当時の人々にとって、現代人よりはるかに身近な存在であったろうが、やはり紫式部の知識と感性の豊かさを認めないわけにはいかない。ここでは、美しい花を咲かせる植物を中心に、登場する「帖」を付して紹介する。

春



ヤエヤマブキ(第28帖「野分」ほか)



フジ(第8帖「花宴」ほか)



イバラ/そうび(第21帖「少女」)



センダン/あぶち(第25帖「螢」)



ヤマブキ(第24帖「胡蝶」ほか)※



ヤマザクラ(第5帖「若紫」ほか)



アヤメ/菖蒲(第25帖「螢」ほか)※



ヤマナシ(第47帖「総角」)※



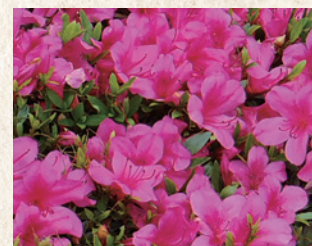
ミツマタ/さきくさ(第23帖「初音」ほか)



キリ(第12帖「須磨」)※



ウツギ/卵の花(第21帖「少女」)※



サツキ/岩躑躅(第21帖「少女」)

夏



ハス(第34帖「若菜上」ほか)



タチバナ(第11帖「花散里」)※



ホオズキ(第28帖「野分」)※



ハマオモト/浜木綿(第21帖「少女」)※



ユウガオ(第4帖「夕顔」ほか)



ツクサ/つきくさ(第47帖「総角」)※



ムラサキ(第5帖「若紫」)

執筆者プロフィール

鳥越一朗（とりごえ・いちろう）

作家。京都府京都市生まれ。

京都府立嵯峨野高等学校を経て京都大学農学部卒業。

主に京都や歴史を題材にした小説、エッセイ、紀行などを手掛ける。

「徳川家康 75 年の運と決断」、「陰謀の鎌倉幕府」、「オキナワの苦難を知る 伝えていこう! 平和」、「明智光秀劇場百一場」、「1964 東京オリンピックを盛り上げた 101 人」、「おもしろ文明開化百一話」、「天下取りに絡んだ戦国の女」、「電車告知人」、「京都大正ロマン館」、「麗しの愛宕山鉄道鋼索線」、「平安京のメロークリスマス」など著書多数。

写真 鳥越一朗

写真協力 城南宮・(公社) びわこビジターズビューロー・その他

※各施設様には拝観等の情報をご提供いただきました。
あらためてご協力に感謝申し上げます。

紫式部と源氏物語 京都平安地図本

定価 定価 1320 円 (本体 1200 円 + 税 10%)

第 1 版第 1 刷

発行日 2024 年 1 月 1 日

文 鳥越一朗

編集 橋本豪 ユニプラン編集部

デザイン 岩崎宏

発行人 橋本良郎

発行所／株式会社ユニプラン

〒 601-8213 京都市南区久世中久世町 1 丁目 76 番地

TEL.075-934-0003 FAX.075-934-9990

振替口座／ 01030-3-23387

印刷所／株式会社プリントバック

ISBN978-4-89704-589-4 C2026

「現代」に重なった「過去」の京都！

平安遷都以来の都・京都—歴史が動く時、天皇の住まう都には英雄・豪傑たちが集い、重要な舞台となりました。本書は、「現代」の京都の地図に「過去」の京都を重ね合わせた地図本です。今に伝わる旧所・名跡はもちろん、既に姿を消してしまった事件の現場・建物を掲載し、かつての京都の町並を想像していただけます。地図本を片手に魅力あふれる京都散策をお楽しみください！

京都地図本シリーズ

第二弾 京都戦国地図本 姫君たちの戦国年表付

定価 943 円 (本体 857 円 + 税 10%)

仕様 B5 判 96 頁

戦国時代から江戸初期にかけての様々な史跡のほか、社寺や城などの敷地も多数掲載。「姫君たちの戦国年表」もお勧めです。



第四弾 京都明治・大正地図本 新島襄・八重、山本覚馬 物語&近代建築物年表付

定価 1037 円 (本体 943 円 + 税 10%)

仕様 B5 判 168 頁

新島八重が生きた明治・大正時代の建築物や史跡などを多数掲載。様々な角度から、明治の京都に光を当てています。同志社大学様からの貴重な写真も必見！



文・鳥越一朗

第二弾 京都源平地図本 平清盛・平家年表付

定価 990 円 (本体 900 円 + 税 10%)

仕様 B5 判 96 頁

平清盛ゆかりの史跡や、社寺、邸宅跡なども掲載。様々な角度から等身大の清盛や平家一門の動きを浮き上がらせています。



文・鳥越一朗

第五弾 信長・秀吉・家康の時代を生き抜いた 軍師官兵衛戦跡地図本

定価 1100 円 (本体 1000 円 + 税 10%)

仕様 B5 判 88 頁

岐阜、滋賀、京都、大阪・兵庫、鳥取・広島、香川・徳島、福岡、大分。各エリアの史跡を紹介。「慶長 5 年の官兵衛九州進軍図」などの図と詳細な年表で、戦国時代を楽しめます。



文・鳥越一朗

こんなにカワイイ光源氏は、初めてです。

ちゅう源氏の源氏物語絵巻

～京都カワイイ平安古典絵本～

A5 判 81 ページ

定価 990 円 (本体 900 円 + 税 10%)

著:ながたみどり

(京都出身のイラストレーター)

監修:山本淳子

(平安文学研究者。「源氏物語の時代」(朝日新聞社)でサントリー学芸賞。「枕草子のくらみ」(朝日選書)など著書多数。)



監修 平安文学研究者 山本淳子

ちゅう源氏物語54帖をかわいいイラストで紹介! 物語の大まかな流れ、人物紹介、注釈、相関図、関連地図なども分かりやすく描いております。ちゅう源氏誕生からその子「薫」の半生を絵本感覚で楽しめます。その他、平安京マップ、六条院のイメージ図、ちゅう源氏をめぐる姫君たちの相関図、源氏物語が書かれた時代の系図、塗り絵、ちゅう源氏の恋と人生 心の折れ線グラフなどを見どころも満載!